

## 資料の見方

問題となる雑草種は、既存の技術体系では防除が難しいもの、既存の防除体系で防除可能であるが蔓延しているほ場が多いもの、収量などへの影響が大きいものを中心に掲載している。

例

1

**シロザ** ヒユ科（アカザ科）、一年生

2

3

本県の大豆作において代表的な雑草の1つ。初期生育はアメリカセンダングサやオオイヌタデに劣るが、草丈は1.5m以上となり大型化する。新葉に赤い粉が付くタイプをアカザという。

4

発生期間	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
		出芽					開花結実					

5

6

形態的特徴	子葉は線形で長さ5mm程度。1・2葉は対生、3葉以降は互生となる。葉身は三角状で、新葉には白い粉がつく。莖は直立し、木質化して硬く、分枝も多く発生する。草丈は大きいもので2mを越える。
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出芽は3月中旬頃～9月と長い。</li> <li>・種子は潜水条件でも3年以上は生存するので、水稲作後も発生する。</li> <li>・多量の種子を生産するので、一度蔓延させると翌年以降もしつこく発生し続ける。</li> </ul>
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌処理剤：効果は一般に高い。</li> <li>・大豆バサグラン液剤（全面）：効果は低い。処理後低日照時を除いて2葉程度までで一定の生育抑制が期待できる。</li> <li>・アタックショット乳剤：2葉までで安定的に枯死～強い生育抑制効果がある。3～6葉では枯死率が高くないものの、7～10日間の生育抑制効果がある。</li> </ul>
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆作付前不耕起処理により、当年産の種子を早期に出芽させる。（3月下旬～5月に多く出芽する）</li> <li>・大豆播種前潜水処理により、種子を齊一に出芽させる。</li> <li>・晩播（7月上旬）にすると発生は非常に少なくなる。</li> </ul>

IV-4

1 種名、科名、一年生・多年生の別

2 リスク評価



ほ場へ侵入後早期に甚大な被害を与える場合があり、警戒が必要



蔓延すると有効かつ効率的な防除方法がない(難防除)



国内で除草剤抵抗性個体の発生が確認されている



既存の技術体系で防除可能だが残草しやすい(やや難防除)

3 概説(発生状況など)

4 県内のほ場における発生期間

5 形態的特徴:見た目の特徴

5 生態的特徴:防除上で重要な生態的特徴(出芽期間, 種子寿命, 出芽深度など)

6 化学的防除法, 耕種的防除法